

みなさんからの意見・質問について

- ① 水道の経営戦略の2ページと、下水道の経営戦略の3ページにある有収水量の推移と料金収入の推移のグラフの縦軸の単位が違うのではないかと指摘のとおりですので修正しました。

- ② 水道、下水道それぞれの経営戦略（案）に経営比較分析表が掲載されているが、それぞれの指標の意味、計算式がわからないため、雲南市が類似団体と比較してどうなのかわからない。
→・・・資料 No. 2

- ③ 資料 No. 5 で一部改定の理由に「改定率 100%を求められている」とあるが、この改定率とは何か
→経営戦略を策定後、進捗状況によって「3～5年ごとに改定を行うこと」とされており、総務省から令和7年度までに全国の100%の自治体で経営戦略を改定されることを求められています。

- ④ 水道事業は令和7年度に料金改定もしているのに、収支計画の令和7年度と令和8年度を比較すると純利益が大きく減少（△15,630 千円）している。理由は何か。
→数字だけ見ると減少額が多いように感じるかもしれませんが、料金改定時の計画から大きく変わっていません。

料金改定時の収支計画との比較		
()内は料金改定時		(単位:千円)
年度	令和7年度	令和8年度
当年度 純利益	20,871	5,241
	(14,249)	(5,015)

令和7年度と令和8年度を比べた場合、収入は、人口減少による水道料金や補助金の減少を見込み、支出は減価償却費や支払利息の減少を見込んでいます。全体として経費の減少より収入の減少が多くなり、純利益の減少となりました。

- ⑤ 下水道事業の経営戦略の3ページ「(4) 施設の見通し」の中で、「公共下水道に隣接する農業集落排水施設」とあるがどこの施設か。
→令和元年4月1日に策定した「雲南市污水处理施設整備構想」により、15処理区(全24処理区)の農業集落排水施設等を公共下水道へ統合(接続)するとしています。

加茂特定環境公共下水道へ統合する農業集落排水施設は、3 処理区で、加茂北処理区、大竹処理区、中山処理区（R6.4 統合）です。

木次三刀屋公共下水道処理区へ統合する農業集落排水施設は、1 2 処理区で、宇治神原処理区、加茂南処理区、三代処理区、西本郷処理区（R2.4 統合）、大島引野処理区、日登処理区、上熊谷処理区、鍋山処理区（R4.4 統合）、多久和处理区、一宮処理区、伊萱処理区、下多根処理区です。

⑥ 新聞に「水道耐震化市町村別公表」が掲載されていた。島根県は 20～30% 台の色だったが雲南市はどうか。

→令和 6 年 3 月末時点の基幹管路における耐震適合性のある管の割合は 27.3% です。

⑦ 前回の説明で実際の水道管を見せてもらったが、これらの管の普及はどこまで進んでいるのか。

→令和 1～5 年度の水道管の更新率の平均は 0.23% です。令和 6 年度からの 10 年間は更新率 0.76% の計画を立てております。

⑧ 雲南市の料金の収納率はどうか。

→直近 3 年間の現年度分収納率は次の通りとなります。

	令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度
水道料金	99.56%	99.50%	99.51%
下水道使用料	99.65%	99.58%	99.58%

企業会計は 3 月 31 日付で決算しますが、市の他の税目との比較のため、5 月 31 日時点の収納率をもって評価しております。